

北海道医療大学大学院 リハビリテーション科学研究科 大学院入学説明会

来年度の大学院入学に関する説明会を開催します。専攻分野の説明や、制度・授業開講方法の説明、相談会も開催しますので、是非この機会にご参加ください。

<第1回> ※申込み不要

- ・日時:9月2日 土曜日 17:00~19:00
- ・場所:札幌サテライトキャンパス

札幌市中央区北4西5 アスティ45 12階

<第2回> ※申込み不要

- ・日時:11月25日 土曜日 13:00~14:00
- ・場所:当別キャンパス 中央講義棟5階 C54教室

石狩郡当別町金沢1757

<プログラム>第1,2回共通

1. 全体説明
2. 専攻分野別説明(①生体構造機能・病態解析学分野)
(②リハビリテーション治療学分野)
(③地域健康生活支援学分野)
3. 相談会(①山口教授、宮崎准教授[第2回]、澤村講師[第1回])
(②吉田教授、岩瀬教授)
(③鎌田教授、鈴木教授)

お問い合わせ(入試広報課):0133-22-2113

北海道内の私大で初、リハビリテーション科学分野の大学院

北海道医療大学大学院 リハビリテーション科学研究科

大学院生募集の お知らせ

2018

リハビリテーション科学専攻

博士前期(修士)課程/博士後期課程

社会人選抜も実施しています。

仕事を続けながら研究を深めたい。

マネジメント能力を高めたい。

先進的な技術を学びたい。

その希望が叶う大学院

質の高いリハビリテーションを実践するための

先進的な知識と技術に加え、

高度化・多様化が進む保健・医療・福祉の現場において、

指導的役割を担うための管理・指導能力や

学際的視点も育成します。

2015年度には博士後期課程を開設し、

学部・博士前期(修士)課程と

一体的な研究指導を行っています。

北海道医療大学



POINT
1

理学療法学と作業療法学を統合し 他研究科とも連携した教育体制

クライアントの問題を医学、心理学、社会学などの観点から把握する能力を育成。また、諸問題をチームで共有し多職種と適切な連携をはかるためのコミュニケーション力や、組織をマネジメントする能力も育成します。



POINT
2

夜間・集中開講、サテライトキャンパスの活用など 学びの環境整備を促進

在職のまま、社会人学生の方もスムーズに受講していただける環境を整えています。毎週水曜日は札幌サテライトキャンパス(札幌駅から徒歩3分)にて夜間開講(18:00~)を行っています。また、休日(土日)を利用した集中講義も実施しています。



札幌サテライトキャンパス
JR・地下鉄札幌駅から徒歩3分の「アスティ45」12階にあり、大講義室、会議室、共有ラウンジを設置。夜間や土日も講義を開講しています。

POINT
3

遠隔地授業配信システムにより 通学が困難な場合でも柔軟に学びをサポート

一部の授業では、双方向のやり取りが可能な「遠隔地授業配信システム」を利用して講義を展開しています。遠方に居住されている、勤務都合で昼間の通学が難しい場合なども、一定の環境下でリアルタイムに受講できます。

リハビリテーション科学研究科大学院生居住地(修了生含む)

札幌市、石狩市、江別市、北広島市、岩見沢市、稚内市、釧路市、旭川市など

入学実績

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
博士前期(修士)課程	5名	5名	5名	2名	4名
博士後期課程	—	—	2名	1名	1名

※博士後期課程の募集は2015年度入学試験から実施

修了生実績

	2014年度	2015年度	2016年度
博士前期(修士)課程	2名	3名	4名

在学生・修了生からのメッセージ

大学院での学びを、自分だけではなく、 後進の研究活動や患者さんの治療に役立てたい。

民間や行政の理学療法士としての臨床経験は20年。しかし、研究経験は不十分だと感じていました。勤務先で研究活動を指導するためにも大学院で研鑽を積みたくらいと思い、2014年に北海道医療大学の大学院へ。3年間の長期履修制度や夜間・休日の講義・研究など、仕事と両立しながら学業にじっくり取り組める環境は大きな魅力でした。指導教員の泉教授は、私の勤務状況にあわせて研究やリハビリテーション管理について熱心、丁寧に指導してくださいました。大学院での学びは、後進の研究活動の活性化や患者さんの治療に還元していきたいと思っています。



花川病院 リハビリテーション部 部長
2017年 リハビリテーション科学専攻 博士前期(修士)課程修了
岡本 康世 さん

北見赤十字病院、自治体保健福祉課などを経て、2014年から花川病院に勤務。現在はリハビリテーション部の部長職を担う。回復期リハビリテーション病棟・医療療養病棟・地域包括ケア病棟の入院・外来リハビリテーション、訪問リハビリテーションを運営

働きながら無理なく勉強・研究のできる環境 教員・研究者としての基礎が築けたと実感

自分自身ももっと研鑽を積みたくらいと思ったこと、学生の指導を行う中で、学生と臨床実習指導者が互いに成長できる体制をつくりたいと思ったことが進学の出発点です。北海道医療大学の大学院は、働きながら無理なく学べる環境が魅力でした。講義の受講・研究は夜間・休日が中心。先生方には研究法を中心に多岐に渡り熱心にご指導いただき、教員・研究者としての基礎をしっかりとつくり出すことができました。先に述べた体制づくりはもちろん、より良い臨床教育で後進を育て、患者さんに質の高い理学療法を提供できるよう貢献できたらと思います。



北海道医療大学リハビリテーション科学部理学療法学科助教 理学療法士
2017年3月 リハビリテーション科学専攻 博士前期(修士)課程修了
佐藤 一成 さん

1999年から医療法人 新さっぽろ脳神経外科病院に勤務する等、2015年4月本学大学院リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻博士前期(修士)課程入学。2017年3月に同課程修了後、本学就任

日々の疑問を解決し、臨床へ還元したい。 めざすは臨床と研究を両立できる理学療法士

より科学的な根拠に基づいた理学療法を患者さんに提供したい、日々の臨床での疑問を解決するための研究手法を学びたいと考え、大学院進学を決めました。病院勤務を続けながら学ぶことが希望だったので、そのためのシステムが整備されている北海道医療大学の大学院へ入学しました。現在は博士課程で、修士課程で学んだ研究法の知識を基にしながら、身体動作のバイオメカニクス的研究、特に変形性膝関節症例を対象とした歩行分析研究を進めています。博士課程の修了はもちろん、研究の中で臨床に生かせる知見を得たいです。



北海道医療大学病院 理学療法士
2017年3月 リハビリテーション科学専攻 博士前期(修士)課程修了
リハビリテーション科学専攻 博士後期課程在学中

河治 勇人 さん

2016年から北海道医療大学病院に勤務。関節変性疾患、スポーツ障害などに主に運動器疾患に対する外来リハビリテーション業務に携わる。内科と連携した糖尿病教室の開催、健康増進セミナー活動など、地域住民の健康増進活動にも関わる。

先進的な専門知識と技術を身につけ、 人材育成や地域社会に貢献したい。

作業療法士として患者さんに貢献するために、作業療法領域における抽象的、概念的な部分を科学的に明確にしたいと考えました。それに必要なが北海道医療大学の大学院で学べる生体構造機能・病態解析学分野だと思って入学。研究法特論Iでの「専門家とは、ある特定の学問・事柄を専門的に研究・担当して、それに精通している人」という言葉は、初歩的なことですが、研究の重要性を指導する難しさを感じていた私にとって衝撃でした。まだ大学院生1年目で学び始めたばかりですが、すべての授業が臨床や教育に還元できると感じています。



時計台記念病院 作業療法士
リハビリテーション科学専攻 博士前期(修士)課程在学中
杉 正明 さん

2017年4月に本学大学院リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻博士前期(修士)課程入学。2006年から時計台記念病院作業療法科に勤務し、現在は主任および回復期病棟リハビリテーション部署の責任者として管理・臨床業務・教育・研究活動等に励む。

生体構造機能・病態解析学分野

理学療法や作業療法をはじめとするリハビリテーションの科学的基盤となる分野である。ヒトの正常な生体構造・機能や各種疾患に起因する生体構造・機能の変化とそのメカニズムを主な研究テーマとする。本分野には、解剖学、身体運動科学、運動・動作解析学の専門領域を置いている。リハビリテーションの科学的基盤となる医科学に関する最新知見を学習し、修得した専門知識と技術を活用しながら臨床課題を解決できる人材を育成する。



教授 小島 悟

バイオメカニクスをはじめとする運動学的手法を用いて、ヒトの身体運動・動作の特性やその発現機序に関する研究指導を行う。



教授 高橋 尚明

人体の構造と運動機能について、肉眼解剖学的手法を用いて考察し、リハビリテーションに必要な機能解剖学に関する研究指導を行う。



教授 青木 光広

バイオメカニクス手法と筋電計測手法を用い、ヒト運動器の形態・構造・機能さらに運動器疾患の病態を解明する正確な臨床評価の実践に関する研究指導を行う。



准教授 宮崎 充功

筋骨格系を中心とする身体組織の可塑性について、身体活動時/非活動時における適応変化の分子メカニズム解明のため、運動生理学、生化学および分子生物学的な解析手法を用いた研究指導を行う。



教授 国永 史朗

脳や筋組織での可塑性の背景には、エピゲノムの可塑性が存在する。学習や運動といった生理的刺激によって変化する遺伝学的メカニズムに関する研究を行っている。



教授 山口 明彦

実験動物を用いた運動や発育に伴う骨格筋成長の調節メカニズムの解明と、ヒトではスポーツ競技におけるパフォーマンス向上や障害予防に関する研究を行っている。



講師 澤村 大輔

行動神経科学、心理学を基盤とした高次脳機能障害の発現メカニズム解明、評価法、治療法の開発、および臨床への還元をめざしたヒトの認知・行動特性に関する研究を行っている。

リハビリテーション治療学分野

各種障害に対するリハビリテーションの治療介入を主な研究テーマとする。本分野には、内部障害リハビリテーション、運動障害リハビリテーション、発達障害リハビリテーション、精神障害リハビリテーションの専門領域を設けている。各種障害に対するリハビリテーションの最新知見をもとに学習し、臨床現場において適切な障害評価と原因を追求できる、さらには科学的根拠に基づいたリハビリテーション治療介入を展開できる人材を育成する。



教授 泉 唯史

呼吸・循環・代謝疾患に伴う運動病態生理学の理論や新知見をベースに、これらに対する新たな評価法や治療法の開発に関する研究指導を行う。



教授 吉田 晋

脳波や経頭蓋磁気刺激などの神経生理学的手法を用いて、中枢神経系の可塑性に注目した基礎研究、臨床研究に対する研究指導を行う。



教授 堀本 佳誉

発達障害リハビリテーションの対象の中心である、脳性麻痺、筋ジストロフィー、二分脊椎、注意欠陥多動障害、アスペルガーなどの疾患に対する評価方法、治療手段に関する研究指導を行う。



准教授 浅野 雅子

精神障害者に対する作業療法介入の実践や精神科リハビリテーションに関する課題の研究指導を行う。



教授 岩瀬 義昭

神経難病・中枢神経疾患から関節リウマチまで幅広い身体障害作業療法領域を教授すると共に指導法・教育法に関する作業療法研究を行っている。



教授 近藤 里美

神経疾患に伴う運動機能や認知精神機能障がいに対する音楽の適応、また、予防からホスピス・緩和ケアにいたるまでの、認知症に関する社会心理的音楽療法の実践研究を行っている。



教授 武田 涼子

身体運動学に基づく運動分析手法を用いて日常生活活動における動作の普遍性と多様性の研究を行っている。

地域健康生活支援学分野

地域社会において障害(児)者や高齢者が健康で主体的な生活を営んでいくための支援策を主な研究テーマとする。本分野には、作業行動学と地域生活支援学の専門領域を置いている。障害(児)者の日常生活活動への支援や高齢者の健康増進への取組などについて学習し、医療のみならず保健や福祉の現場で対象者の生活を支援できる人材を育成する。



教授 鈴木 英樹

地域在宅高齢者の生活環境支援並びに積雪寒冷地における介護予防を研究課題とし、両課題に対する具体的な方策に関する研究指導を行う。



教授 鎌田 樹寛

作業行動学的観点に基づいたアプローチに焦点化した科学的根拠を持つ評価法の開発、および効果的な治療や援助方法の確立を目標とした調査・比較研究を指導する。



准教授 千葉 芳広

地域社会における生活困窮者の生活および就労の実情を踏まえた支援の在り方について、人文・社会科学的観点から研究を行っている。



教授 本家 寿洋

高齢者の余暇活動の楽しさを詳細に評価できる評価法(LAES)を開発し、この評価法を基盤とした事例研究とプログラム開発に関する研究を行っている。

指導教員の研究内容詳細は、募集要項をご確認ください。

学納金

博士前期(修士)課程

初年度学納金

費用	入学手続時	後期(9月)	年額
入学金	200,000円	—	200,000円
授業料	400,000円	400,000円	800,000円
合計	600,000円	400,000円	1,000,000円

※この他に委託徴収金として、入学手続時20,000円(後援会入会金5,000円、後援会費15,000円)、後期15,000円(後援会費)が必要となります。[本学卒業生は後援会入会金免除]

2年次の学納金

費用	前期(4月)	後期(9月)	年額
授業料	400,000円	400,000円	800,000円

※この他に委託徴収金(後援会費)として、前期15,000円、後期15,000円が必要となります。

博士後期課程

初年度学納金

費用	入学手続時	後期(9月)	年額
入学金	200,000円	—	200,000円
授業料	375,000円	375,000円	750,000円
合計	575,000円	375,000円	950,000円

※この他に委託徴収金として、入学手続時20,000円(後援会入会金5,000円、後援会費15,000円)、後期15,000円(後援会費)が必要となります。[本学卒業生は後援会入会金免除]

2年次の学納金

費用	前期(4月)	後期(9月)	年額
授業料	375,000円	375,000円	750,000円

※この他に委託徴収金(後援会費)として、前期15,000円、後期15,000円が必要となります。

奨学金制度等

東日本学園奨学金(本学奨学金)

博士前期(修士)課程

博士後期課程

年額 600,000円(無利息) 年額 800,000円(無利息)

大学院奨学生(本学卒業生、修了生等)

入学金全額免除、授業料半額免除

日本学生支援機構奨学金

博士前期(修士)課程

博士後期課程

○第一種(無利息)月額50,000円又は88,000円 ○第一種(無利息)月額80,000円又は122,000円
○第二種(利息付)月額50,000円~150,000円 ○第二種(利息付)月額50,000円~150,000円

教育訓練給付金

本研究科は一般教育訓練給付の指定講座です。

長期履修制度により社会人の就学を支援

勤務の都合などで、2年間で課程を修了することが難しい場合は、長期履修を申請することができます。(授業料は2年間分のみの納付です。)

大学院入学説明会 開催日程

第1回 2017年9月2日(土) 17:00~19:00
会場/札幌サテライトキャンパス
札幌市中央区北4条西5丁目 アスティ45 12F

第2回 2017年11月25日(土) 13:00~14:00
会場/当別キャンパス
石狩郡当別町金沢1757

■ 入学試験日程

	博士前期(修士)課程		博士後期課程
	第1回 [一般選抜/社会人選抜]	第2回 [一般選抜/社会人選抜]	
出願期間	2017年9月25日(月)~2017年10月11日(水)	2018年1月9日(火)~2018年1月22日(月)	2018年1月23日(火)~2018年2月7日(水)
試験日	2017年10月16日(月)	2018年1月24日(水)	2018年2月14日(水)
合格発表	2017年10月23日(月)	2018年2月1日(木)	2018年2月23日(金)
手続期間	2017年10月24日(火)~2017年11月2日(木)	2018年2月2日(金)~2018年2月9日(金)	2018年2月26日(月)~2018年3月5日(月)

※詳細は本学ホームページ、お電話でご確認ください。

■ 入学試験科目

一般選抜
博士前期(修士)課程・博士後期課程
● 専門科目
● 外国語(英語)
● 面接

社会人選抜
博士前期(修士)課程
● 小論文
● 面接

資料請求・お問い合わせ先

北海道医療大学 入試広報課

☎ 0120-068-222 (E-mail) nyushi@hoku-iryo-u.ac.jp
(ホームページ) <http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~koho>



北海道医療大学
Health Sciences University of Hokkaido

TEL 0133-23-1211 (代)
当別キャンパス/〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
札幌あいの里キャンパス/〒002-8072 北海道札幌市北区あいの里2条5丁目
札幌サテライトキャンパス/〒060-0004 北海道札幌市中央区北4条西5丁目 アスティ45 12F

■薬学部○薬学科 ■歯学部○歯学科 ■看護福祉学部○看護学科○臨床福祉学科 ■心理科学部○臨床心理学 ■リハビリテーション科学部○理学療法学科○作業療法学科○言語聴覚療法学科
■大学院薬学研究科○薬学専攻(博士課程)/生命薬科学専攻(修士課程) ■大学院歯学研究科○歯学専攻(博士課程) ■大学院看護福祉学研究科○看護学専攻(博士前期・後期課程) 臨床福祉学専攻(博士前期・後期課程)
■大学院心理科学研究科○臨床心理学専攻(博士前期・後期課程) 言語聴覚学専攻(博士前期・後期課程) ■大学院リハビリテーション科学研究科○リハビリテーション科学専攻(博士前期・後期課程)